

## 那珂市議会教育厚生常任委員会記録

開催日時 平成30年10月12日(金) 全員協議会終了後

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 筒井かよ子 副委員長 富山 豪  
委員 寺門 厚 委員 古川 洋一  
委員 遠藤 実

欠席委員 委員 中崎 政長

職務のため出席した者の職氏名

議長 君嶋 寿男 次長 清水 貴  
次長補佐 横山 明子

会議に付した事件

(1) 調査事項「障がい児教育」について

…視察研修終了後の意見交換を実施

議事の経過(出席者の発言内容は以下のとおり)

開会(午後2時34分)

委員長 教育厚生常任委員会ですが、朝から幾つもの委員会がありまして、皆さんお疲れのところご苦労さまでございます。

先日は、2つの特別支援学校を見学というか視察をいたしまして、皆様それぞれにお気づきの点、お考えの点があるかと思いますが、きょうはそれについて、皆さんで話し合いをしたいと思います。以上で挨拶とさせていただきます。

ご連絡いたします。

会議は公開しており、傍聴可能とします。

また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。

会議内での発言は必ずマイクを使用し、質疑・答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いいたします。

携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくかマナーモードにしてください。

ただいまの出席委員は5名であります。欠席委員は、中崎委員1名であります。

定足数に達しておりますので、これより教育厚生常任委員会を開催いたします。

職務のため、議長及び議会事務局職員が出席しております。

議長のご挨拶は省かせていただきます。

ではこれより議事に入ります。

1、調査事項「障がい児教育」についてを議題といたします。

先日、特別支援学校、特別支援学級について調査するため、茨城大学附属特別支援学校、

常陸太田特別支援学校、菅谷東小学校特別支援学級の視察を行いました。

本日は皆様からそのときの感想やご意見をいただき、今回の視察研修についてまとめていきたいと思えます。

では、感想その他お気づきの点ございましたら、お一人ずつお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

遠藤委員 特別支援学校を2つですね、茨大附属と常陸太田、言ってみれば国立と県立と、それから地元の菅谷東小学校の特別支援教育、全く違う三者三様のパターンを見せていただきまして、非常に私も初めてのところもありまして勉強になりました。

何点かの観点で、どうなのかなと思って見てきたわけですが、まずそれぞれの障がいをお持ちのお子さんに対して、どのようにその特性、その方の障がいの程度とか特性に生かした教育ができていのかというの、私の最大のテーマでありました。

やはりそこで見ていくと、特別支援学校においては、教職員の配置が児童生徒さんに対してどれぐらいの割合でやっつけられているのかなというの、素朴な疑問でありまして、見るとやはり大体児童1人につき2人ぐらいの配置で双方されていたのかなという感じもするんですね。

ただよくよくお聞きしてみると、その障がいの程度によってなので、一概にそうとも言い切れないというのを見ても大変わかりましたけれども、やはりそうすると、特別支援学校に行くこと自体はそのお子さんに対してはすごく手厚い教育ができていたんだという感じは十分いたしました。

そこで、学校、いわゆる地元の小学校に入るに当たって、市の教育委員会でその判定会議があるわけでしょうけれども、本当にその子にとってどちらの学校に行けばいいのかというふうな判断するとき、やはり特別支援学校自体それなりの充実した環境があるなどというのは、これはひとつ認識は深めたところです。

ただ、じゃ実際自分の居住地校に行ってみるとどうなんだということになってみると、菅谷東小学校はこれまたこの水戸管轄エリアでもトップクラス、ということはおそらく県内でもかなりトップクラスの障がい児教育ができているところなんだと思うんですね。

これはスタッフ含めて11名の教職員がいるからできるんだという話を校長先生もおっしゃっておられました。なので、やはり教職員の数だなあというふうにつくづく思いました。

だから、市内の障がいをお持ちの児童が、居住地校に行くに当たっては、菅谷東小学校はすごく恵まれているなと思いましたが、一方で菅谷東小学校以外の小学校はどうかというと、おそらくそれに携わる先生方は二、三人なんだというふうなことになってみると、なかなかやはりそこに差があるし、あとはインクルーシブ教育というふうな話がありましたが、これはもうその障がい児をみるのは、特別支援学級だけじゃなくて、もう通常の教室の中でも、そういうふうな子をみられる器量が今の先生にはないんだということも改めてお聞きしまして、やはり今の先生を取り巻く環境はかなり複雑になってるんだなと

いうことも実感をしたところですね。

ですから今後、この常任委員会で、またその障がい児教育をやっていくにおいては、市内の学校の先生がたがどれぐらい障がい児教育に対して理解をしていただいているか。こらっていうのをまた調査をしていく必要があるかと思うし、今度は先生方の声をお聞きしていくような機会も取れるといいのかなという感じもしてまいりました。

また、子供さんにとってみれば、この特別支援学校に行っているお子さんがどれだけその地域とかかわりを持てるような環境をつくれるかなということで注目していたのは、居住地校との交流であります。

これは話を聞いた限りでは、親御さんの要望に従って、それなりにされているという実情はわかりました。常陸太田特別支援学校のほうでも、那珂市は、5校ぐらいでしたっけ、11名、やっていらっしゃるということなので、それはそれでイベントに参加するだけじゃなくて本当に音楽の教室に時間に行って一緒に歌ったりとかね。そういう地元の居住地校のカリキュラムの中に実際に参加をしてやっていらっしゃるということもお聞きしましたので、非常にこれはいいことだなと思ひまして、居住地校交流っていうのもっとを広めていただくといいのかなというふうな感じがしてまいりました。

またいずれにしましても、特別支援学校の教職員の方々は指導要領にはあるわけでしょうけれども、ご自身で工夫して教材をいろいろとつくっておられたということには感銘をいたしました。非常にあれは大変だろうと思ひました。なので、校長先生にもちょっとお聞きはしましたが、教職員のある意味その労務環境も心配になったところではありますが、それなりにやはりかなりお子さんのためにとということでご尽力いただいているという姿もきちんと見ることができてよかったなと思ひます。

とりあえず以上です。

委員長 ありがとうございます。

古川委員 結論を先に言うと、それぞれの特別支援学校においては、今遠藤委員もおっしゃったように、それぞれの特色を生かしたきめの細かい教育をしていただいているんだという気はいたしました。これは、結局だれが最終的にその子供さんのためにと思っ、どこがいいのかっていうのは親御さんが結局は選ぶわけですけども、それについてはもし、知らないで地元は嫌だとかそういう特別支援学校は嫌だとかそういうことで選んでいただいているのだとすれば、それは非常に行政としてというか、申しわけないことだなと。

だから、きちんとまずはその学校ではどういうことができる、どういうことをやっているという情報をきちんとその保護者の方々にお伝えした上で、選ぶのはご本人っていうか、保護者の方で仕方ないのかなという気がしましたので、まず情報をきちんと伝えていただくということがまず大事なのかなと。それが1点目ですね。

2点目は地元で学ばせたいということであれば、地元で特別支援があればいいんじゃないのかなと。ちょっと極論ですけどね。これは支援学校じゃなくても、例えば、那珂市は

菅谷東小に全部統合しちゃいましょうと。それがいいかどうか分からないですよ。

やっぱり地元っていうのは、瓜連は瓜連で、木崎は木崎で、菅谷は菅谷でっていう地元っていうもちろん考え方もあるでしょうけど、いわゆる今は市外の特別支援学校しかないですよ。

ですから、那珂市にそういう支援学校が、これが県立であろうと那珂市立であろうと、ということを見ると、地元にあってほしいっていうのであれば、那珂市に一つの学校に統合して、今菅谷東小学校では11人いまして、ほかの学校に例えば3人とか4人しかいないから苦勞してるのであれば、全部あれにしちゃって、その支援の先生方が例えば20人いるよ、30人いるよという体制でやるならば、もうちょっとまた違ったやり方をもしかしたらあるのかなあなんていうことはちょっと思いました。

とりあえず以上です。

寺門委員 国立、県立それぞれの特別支援学校、初めて見させていただきましたけど、大変環境が恵まれていて、素晴らしい教育ができているなというふうに思いました。

国立については、茨城大学附属ということで、入試もありまして、ここは54名だったかな、定員もあってなかなか入るのが大変だなという印象を持ちました。

もう一つは、逆に言うと国立の支援学校という内容についてよく、学校自体がよくお知らせしてないですよという話がありましてね、それはもっと知らせるべきだなと、1時間が通学圏内ですよということなので、関係する自治体にもっとPRが必要なのではないかと、逆に言うと、我々その自治体に入ってますんで、那珂市からも行ってますから、もっともっと、情報はもらうべきだなという気はしました。

もう一つは、国立ですので茨城県内の障がい児教育のリーダーとなっている、牽引していくところでもありますので、その辺は教員それからこれから教員になろうとする方々の養成もやっていますんで、そういうノウハウをたくさん持っているんで、地元の特別支援学級を抱えるところの先生方への研修とかアドバイスですとか、というところをもう少し活用できるんじゃないかなということで、そういう機会をつくるべきだなというふうに思いました。

県立の常陸太田特別支援学校については、ここは建物、先生方ともに非常に恵まれた環境だなというふうに思いました。

実際にやっている内容についてはきちんと目的を持ってやってらっしゃるということなんで、あとは、やはり先生方の努力が、もう教材であり、それから授業の進め方であり、非常に苦勞をして、いろいろなものを手づくりでやって、これは国立も一緒なんですけども、そこまで面倒見るのかなというところは、ちょっと思いましたね。

あとは大きな問題として、自立というところが最終目標だということにはなるんですけど、高等部を卒業して自立して就職ということになるとなかなか難しい。それぞれ障がい児関係の施設に行ったりなんだりという話は聞きましたけれども、これ民間の会社に就

職するというのもなかなか厳しい状況のようでした。

そういった情報が余りない、少ないというのもありまして、今後はやっぱりその就職ということ、社会人として、企業人、会社員として、ずっとやっていける、そういうところまで含めたその支援が必要じゃないかなというふうに思いました。受け入れのほうも要するに民間であれ、企業のほうの教育も非常に重要なのかなというふうに思います。

もう一つは、地元校がないですね、那珂市は。先ほど古川委員も言っていましたけど、これは常陸太田の県立学校を見たときに、190名もいて、今後少子化でありながら、障がい者がふえるという可能性が非常にありますんで、現実にな珂市内でもふえている状況なんですね。これは本当に190名で面倒見られているのかなと、今後ふえた場合に。

そういう懸念もあって、やっぱりサイズの的には50数名だとかという、那珂市内だと大体そのぐらいになると思うんですけども、1自治体で持つべきかなという気がしましたですね。特別支援学校というその形は別にしましてもね、体制等、現実にはやれる場所も必要だなと思いました。

以上です。

副委員長 大体この間視察させていただきまして、先輩方とほぼ同意見でございます。

もうこの那珂市で何ができるのかなと思うと、あの教育をこっちの学校でやるっていうのは大変難しいことになると思うんで、そうなってくると、人員の支援とか、やはりそれに尽きてくるのかなと、あとまた再び言えるのは、さっき言った菅谷東小学校があれだけすばらしい障がい支援教育をやっていて、ほかの学校にはまだ今それができてない状況の中で、統合するなり学校をすぐ作るというのは難しいかもしれませんが、ああいうふうな手厚いのをほかでもやれるような仕組みをつくっていかなくちゃならないのかなっていうのは感じたんですけど、これは多分相当人員的にも難しいと思うんですよ。

でも、やはり、菅谷地区の子供さん、あそこの近くだったら、あのくらい手厚くしてもらって、例えば私のほうの瓜連だったら、もっともっとひどい状況にあるなんていうのも、差があっては余りよくないと思うんで、何らかの今後考えをつくっていかなくちゃならないのかなと感じました。

委員長 私の意見を述べさせていただきます。

特別支援学校というのを、実際の授業内容を見せていただきましたのは、私本当正直初めてです。今まで特別支援学校・学級について、まことに申しわけないですけどちょっとこう偏見を持って、私も見ておりましたが、実際に授業内容を見ておりますと、まさしく先生方が、皆さんその一人一人に合った、教育体制をとって、熱心にさらに本当に熱意を持って取り組まれているのがよく今回わかりました。

以前にも、子供たちをある程度障がいがあっても、地元の学校に入れたいという親がいるという話も多々ありますけども、そのときは、それもそうかもしれない、やはりその世間体とかいろいろ考えて地元の学校に入れておきたいという意見もわかるなと思っていた

のですが、今回実際に支援学校の内容を見ましたら、その子供にとっては、地元の普通校に入れておくよりも、支援学校のほうに通学させて、その子供に合った意味のある教育を受けたほうがその子にとっても大変いいのではないかと。その辺のところ、私はちょっと考えが変わりました。

今まで本当に親の立場できっといろいろあるんだろうなと思いましたが、支援学校のほうに入れてそれなりのちゃんと教育を受けたほうがその子にとっても幸せであるんだろうなということを感じました。

先ほどから出ておりますが、菅谷東小学校の支援学級についても、先生の人員的な配置が、人数がいるということで、できていますけど、ほかの学校はおそらくもしかしたらもっと違う形で、ちょっと困っているところがあるかもしれない。これからやはりその各学校の支援学級についても、なんらかの形で調査をして、いい方向に向けていかなければならないのかなということを感じました。

特に茨大附属もそうですが、常陸太田の特別支援学校、人数も多いですし、先生方もいっぱいいらっしゃるし、熱心に、どこも熱心なんですけど、子供たちに対して、例えば、いわゆる教室に行けなかったらこっちにちょっと待機する部屋があったり、いろんな面で体制を整えられて指導に当たっているというのが大変すばらしい教育をしているんだなっていうのを、今回私はしみじみ感じました。

以上です。

遠藤委員 本当に皆さんの話を伺っていて私もいろいろと感じましたね。

確かに古川委員がおっしゃっていた特別支援学校を那珂市にもってという話は、当日も出ておりましたですね。やはりふえてるんですよ、県内各地で要望が、前私が県にいたときも要望があちこちあって、それからふえたんですよ。今県内44市町村あって今22なんですって。だから、2自治体で1つなんですよ、割合として。

あとは人口とか、お子さんの割合でどういう設置基準かわかりませんが、おそらく五万五、六千人の人口の那珂市で一つあってもいいような気はしますよね。というのは常陸太田で話を聞いたときに、法律上、ああいう特別支援学校っていうのは、その地域のセンター的機能を果たしているっていう話を聞きまして、あれはその特別支援学校内だけでやってる話じゃなくて、地域の学校にも出向いて行って、そういう相談を受けたり、出前講座したり、居住地校の先生の指導も相談にもものっている、あと親の相談にもものっているって言ってましたね。

だからああいう学校が地域にというか、一つ自治体にあるっていうことは、この地域全体の障がい児教育とか障がい児施策に大きな貢献をするんだなっていうのはよくわかりました。なので、常陸太田特別支援学校のほうの先生も、菅谷東小学校の先生に教えに来てるとか、相談に来てるって言ってましたからね。

そういった意味では一つ設置っていうのもさることながら、それはちょっと県の事業で

すが、あとどうなのでしょう、今後考え方として、市内にはただ菅谷東小学校というすばらしい障がい児教育をやっているところがあります。あそこは今でもほかの小学校から通っている、心の教室とか言葉の教室で通っているって言ってましたよね。

あれって普通に昇降口から入るんじゃなくて、あそこに直接入れるように、そもそも仕組みになっていて、だから、せっかく人員はいるところだから、もう少しあそこを増築でもしてあげれば、そういうセンター的な、そういうことができるのかなっていう可能性としてね、菅谷東小学校が特別支援学校持ってくるんじゃなくても、あそこがせめてそれぐらいの何か取り急ぎのセンター的機能がもし果たせるんだったらすばらしいなという感じもしたんですけど。

ただそれはちょっと今後の調査で調べてみないとわかりませんが、どこまで市の事務事業でできるのか、ただもし、ほかの菅谷東小学校以外の学校がかなり悲鳴を上げているとすれば、やはり菅谷東小学校の果たす役割もまだ市内ではあるのかなという気がしますので、今後の調査にもなるかもしれないなっていうこと感じました。

古川委員 あとですね、これも菅谷東小学校の先生にお聞きしたときに、特別支援教育コーディネーターの先生をふやすのと、いわゆるこの間も9月の補正であった生活指導員とか、正職員じゃなくて、そういう方をふやすのとどっちがいいんですか。

私はその教育コーディネーターみたいな方がどんどんふえたほうが、いろんな教育が専門的にできていいんじゃないですかって言ったんですけど、それよりも支援員の方のほうをもっと採用してほしいというようなことはちらっと言ってました。

副委員長 あと就労までもやはり、市内各地区にいっぱい障がいを持った方々がお勤めされている。そういう事業所っていうのはあると思うんですよ。ここからスムーズにそういうところに来るのか、どういう紹介でそういうふうにそこに来られる経緯があるのかっていうのも、今後見てみたいというか、市内にありますから、遠くまで行かなくてもできる研修ですので、そういうのも考えていただきたいなと思いました。

委員長 そうですよ。

寺門委員 あと調査ということでは、今までは受け入れ、特別支援学校ですとか学級、学級も一つしか行ってないんですけども、あと実際に那珂市内の特別支援学級を担任してる先生方ですとか、実際に特別支援学校に通わせている児童、あと保護者の方の声っていうのを一度お聞きしたいなというふうに思ってます。

どういう判断、非常に難しい部分があるんですけども、実際はどうなのでしょうねっていうのをちょっと聞ける範囲でですが、そういう場があればいいなというふうには思いました。

議長 ちょっと私のほうから、たまたま常陸太田に行った次の日に地元の方、常陸太田特別支援学校の近所の方と会うことがあって、お話しさせていただいたときに、その方たちが言っていたことは、この学校に来られる子供さんは幸せだねと。ただ、来られない方、家族が

表に出さない、寺門委員が言ったように抱え込んで外にも出さない子供さんも実際はいるんですという話もされたんですね。

ですからやはり、特別支援学校に通える子供さんは確かにいろいろ技術等や勉強もできる。ただ、そういう人ばかりじゃないことも忘れては困りますねっていう話があったんで、本当にたくさんいると思うんですね。

あと那珂市でもどんどん整備したいと思うんでしょうけど、一つ県のほうでこの間議長会で話が出たのは、日立市に市立の特別支援学校があって、ここはもう持ちきれないと、維持管理からいろいろ負担がかかり過ぎて、できれば県のほうに移管したいという話もあるんで、今後はやはり県の施設として、要望できるような形がとればね、市の負担じゃなくて、県のほうから支援をもらえるような体制がとればもっといいのかなっていうのを感じました。

委員長 皆様からいろいろ意見をちょうだいいたしまして、先日の茨大附属と常陸太田の特別支援学校、菅谷東小学校の特別支援学級、3つについての視察の感想をそれぞれいただきましたが、その中で、今もっと進めてその流れで、そのほかにもこういうものを調査したほうがいいんじゃないかという意見が出ましたけども、これからも、この障がい児教育というテーマの中では、さらに調査研究をしてはどうかという意見でしたけども、それはしていったほうがよろしいでしょうか。

先ほどももうちょっとっていうお話が出ましたが、それについてはさらにもう少し突っ込んだ形で、例えば保護者の方の意見とか、あと携わっている先生方の意見とか、そういったこともちょっと突き詰めていってみたいと思います。

遠藤委員 さらにつけ加えると、菅谷東小学校に行ったときにお聞きした内容で、こことも結構連携を取っているとおっしゃってたのは、教育支援センター、今議長もおっしゃってた学校に通えない子ってここに行っているわけですね。だからその実情がどうなのか、そこらっていうのもちょっと、障がい児教育とはちょっとどうかわかりませんが、一応今後、旧戸多小学校に新しく入っているということもありますし、同じ市内なんで、そういったことを含めてもいいのかなと思いますね。

委員長 皆さんからの意見をちょうだいいたしまして、今回の視察についてのまとめという形で委員長、副委員長で少しまとめさせていただきます。そしてさらに調査研究ということもあわせて、まとめていきたいと思いますので、そのときにはどうぞご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、きょうのところは皆さんのほうから、さらにこれについてはぜひとかいうのがありましたら伺いますが。

(発言する者あり)

委員長 きょうの意見をまとめて、その後、具体的にどういうところに行こうかというのは、次回の委員会のときでも、原案をつくって報告したいと思いますが、よろしいでしょうか、



それで。大丈夫ですね。

では、そのような形で進めさせていただきます。

それでは、本日の案件はすべて終了いたしました。

以上で教育厚生常任委員会を閉会といたします。長時間にわたって、朝からの方もいらっしゃるでしょうから大変ご苦勞さまでございました。

閉会（午後3時05分）

平成30年11月13日

那珂市議会 教育厚生常任委員会委員長 筒井 かよ子